

わがまち再発見!!

対馬市教育委員会 文化財課

☎0920(54)2341

対馬各地の地名 (大字編)

【上県町佐須奈】

『津島記事』によると、現在の集落地は、元々は海や河口でしたが、徐々に土砂が堆積して土地を形成していった様から、砂州浦と呼ぶようになったと伝えられています。

対馬では、古くから浦のことを「な」と呼んでいたことから、「さすな」と呼ばれるようになったとされています。

【上県町西津屋】

『津島記事』では、この場所が対馬北西海岸の良港の一つで、東西の船商人が集まる場所だったことを語源としています。古くから、この湊のように商人が多く集まる場所では、商品の運搬、販売などの手数料を徴収する家があり「和名類聚抄」では、そうした家や場所のことを「邸屋」と呼んでいました。紀事では、それが語源となったと伝えられています。

【上県町佐護】

八郷の郷名紹介でも紹介しましたが、土砂が堆積する様子を表す「沙が凝らす」の略で沙凝となり、転じて佐護となったとされています。平安時代に編纂された「和名類聚抄」にも見られる古い地名で、古代佐護郷の中心地であったと考えられています。

【上県町志多留】

『津島記事』によれば、志多留とは「清水が滴る」が訛つて「したる」と呼ぶようになったと伝えられています。

伝えるところによると、この清水とは志多留の東乙宮山の麓にある小流水のことで、この流れは早魃の時も枯れることなく流れていることから、清水が滴ると呼ばれるようになったとされています。

【上県町伊奈】

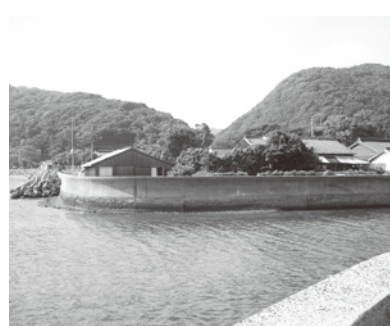
八郷の郷名紹介でも紹介しましたが「いな」は「稲」が転じたもので、伊豆山に和都都美神社を祀ったときに白鶴が飛んで

きて稲穂を榎田に落としたので、里人がこれを植え神供としたことから榎田を神田と称したとい、これに由来して伊奈と呼ぶようになったと言われています。

【上県町越高】

『津島記事』によると、この場所が高い嶺を越えなければ、隣部落と往来することを得ないので、越高と呼ばれるようになったと伝えられています。

他に越田浦が訛つたとの説もあり、さらに中世の古文書には「小したか」とあることから「したか」が直接の語源となっていた可能性も指摘されていますが、詳しくは分かっていません。



志多留貝塚 遠景

つしま図書館情報

つしま図書館 ☎0920(52)3900

●図書館カードの更新手続きを行なっています。期限切れの方はカウンターまでお持ちください。
(住所の確認ができるものが必要になります)

11月の休館日

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	3	4	5	6	7	8
9	10	11	12	13	14	15
16	17	18	19	20	21	22
23	24	25	26	27	28	29
30						

今月のおすすめ新着本

『里山シンプル生活』
位田 めぐみ/著

お山の暮らしは、贅沢、時々、過酷。コンビニなし、電子レンジなし。自給自足を目指して、古民家再生、自然との共存で見えてきた、生きる上で大切なもの。「里山資本主義」をリアルに体現!

『明日の子供たち』
有川 浩/著

児童養護施設に転職した三田村慎平は、やる気は人一倍の新任職員。愛想はないが涙もろい和泉和恵や、「問題のない」16歳の谷村奏子らに囲まれて繰り広げられるドラマティック長篇。

『日陰や狭い場所での小さな庭づくり』
主婦の友/著

玄関脇・テラス・壁際・小さな花壇・通路など、今までガーデニングにはあまり利用されていなかった日陰や小さなスペースでの花やグリーンの育て方、美しい飾り方を分かりやすく解説しました。

『かえってきたへんしんトンネル』
あきやま ただし/著

このトンネルをくぐると、なぜかいろんなものがへんしんしちゃうんです。さあ、みんなもトンネルをくぐって、ふしぎなことばあそびをたのしんじゃいましょう!

『すごいぞ!!重機大集合』
ニシエ芸株式会社/作

工事現場などで活躍する、独特の形をした大きくてカッコいい重機。さまざまな重機の中から、建設物の土台となる土地や道路をつくる建設機械や作業者を紹介します。

『きみとのやくそく』
都築 奈央/著

私は、お父さんと2人暮らしの小学5年生。そんな我が家に、犬がやってきた。私は最初はイヤだったんだけど、でもね…。一匹の犬を通じて得た、大切な気持ちを描きます。